

# 一柳慧『電気メトロノームのための音楽』(1960) 演奏法

松平敬 編 (2015/4/17作成)

ゴシック体：スコアに記載されている事項を整理し直したもの  
明朝体：筆者が作曲者に確認した、スコアに未記載の注意事項  
出版楽譜：Peters

**演奏者の人数：**3～8人

演奏位置：可能であれば、奏者ごとに空間的に離れて演奏することが望ましい。

## 演奏の開始：

片側にしか線のない数値の部分からスタートする。

スコアの端に近い数字を選んだ奏者から演奏を始める。

＞スタート地点を事前に決めておく必要はない。自分の選んだ数字が端の方だなと感じた人は早めのタイミング、中央だなと感じた人は遅めのタイミングで演奏を開始する。ひとり、またひとりと演奏者が増えてゆくニュアンスが出せれば、演奏開始の順序は厳密でなくても良い

各自のペースで線を経由して数字から数字へと動いていくことによって演奏が進んでゆく。ある数字から別の数字へ移動し、またもとの数字へ戻るUターンのような動きも一応は可能

## 演奏の終了：

0のところに辿り着き、メトロノームをオフにする。

＞指定通りやれば、一人一人演奏を終了してゆく状態になるはず。全員同時に演奏をやめない。

## 演奏時間：

最後の0へと向かう終結部をのぞいて、8分以上。

＞だれかが経過時間をチェックしておき、コーダ部に入るキューを出す。

## 数字の解釈法：

大きな数字：メトロノームの数値。ただし0はメトロノームをオフに

＞使用メトロノームに対応する数値がない場合は近似値でよい。

(線上の) 小さな数字：メトロノームをあるテンポから他のテンポにゆっくりと変化させるときの鳴らされる音の数

＞単純なacc. rit.。それとも目標テンポを通り過ぎ戻すことは不可。  
・テンポを徐々に変化させられるメトロノームを選ぶ必要がある。あるテンポから別のテンポにジャンプするようなものは使用不可。音色を変えられる機種においては、演奏途中で音色を変更しても良い。

0の場所においては、線の長さがメトロノームをオフにする時間。その後メトロノームを再スタート。

＞線の長さとの関係は感覚的でよい。(演奏指示に反し)長さにこだわらず自由な時間を設定してもよい(1分以上の極端に長い持続も含む)。

0から他のテンポに行く場合：(オフの状態から)即座に次のテンポへ変更する

数字から0に行く時：メトロノームで設定可能なもっとも遅いテンポまでrit.してオフに

### 3種類の線の解釈法

#### 実線

---

- ・直線：メトロノームの操作のみ
- ・1箇所のカーヴを伴う曲線：1つのアクションを行う（e.g. 歩く、ジャンプする）  
　　>意図的に音を発する行為は避ける。行為の持続時間は任意。所要時間の全体にわたっても、一瞬でもよい。
- ・2箇所以上のカーヴを伴う曲線：カーヴの数に応じたアクションを行う。

#### 点線

---

- ・直線：1つの、外部の物体を使わない肉体が発する音（e.g. 手拍子、口笛、声）  
　　>「1つの音」とは単音、クラスターなど。短いメロディーなどは複数の音とみなされるので不可。
- ・1箇所のカーヴを伴う曲線：任意の数の、肉体が発する音（1種類）  
　　>例えば口笛を選択した場合、口笛でありさえすれば、はじめにやったことと全く同じことを繰り返さなくてもよい
- ・2箇所以上のカーヴを伴う曲線：カーヴの数に応じた肉体が発する様々な音  
　　>音ごとに異なる音色が望ましいが、目立たない程度に同じ音色が重複してもよい

#### 波線

---

- ・直線：1つの、楽器や機械などを使った（体の）外部の音  
　　>通常の音楽を想起させない音源の選択が望ましい。ピアノなど通常の楽器を使用しても良いが、あくまでもメトロノームの音が主役であることを意識する。むしろ特殊奏法などは歓迎。
- ・1箇所のカーヴを伴う曲線：任意の数の、楽器等の音（1種類）  
　　>古典的なメロディーなどを想起させないように注意する
- ・2箇所以上のカーヴを伴う波線の曲線：様々な外部音源によるカーヴの数に応じた音

>波線と点線が重なっている部分：同時に肉体音と外部音を演奏

>波線と点線が繋がっている部分：線上の進行方向に応じて、肉体音→外部音、または外部音→肉体音

アクションや（メトロノーム以外の）サウンドは、メトロノームを操作した後、その操作時間（=テンポを変化させる時間）とほぼ同じ時間をかけて演奏する。

（隣り合った数値が同じで）メトロノームを操作する必要がない場合は、線上の小さな数字に対応する拍数で、アクションや音を発する。

>一部、数字の記載が線の部分では、長さは感覚的に自由に決定される

>ダイナミックは自由だが、中庸な音ばかりにまともならず、突然強い音が演奏されるなど、音量のコントラストが合った方がのぞましい。

>普段は演奏を補助する道具としてのメトロノームを音楽の主役にしようとする作曲のコンセプトを理解した演奏解釈が求められる。コンセプトをきちんと理解してさえいれば、楽譜の指示からわずかに逸脱することも許容される。